

どなたでもご受診いただける地域の病院

東京警察病院 NEWS

TMPH Tokyo Metropolitan Police Hospital
2022 Summer Vol.39

- 麻酔科部長就任のご挨拶
- 産婦人科ロボット支援手術ご紹介
- WEB健康講座
- 患者さまからのメッセージ
- 災害対応訓練実施報告
- 病院からのお知らせ
- 人間ドックのご紹介

麻酔科部長就任のご挨拶

本年度より東京警察病院に赴任いたしました。専門領域は麻酔科学です。医師になって28年になりますが、ここでは少し昔のお話しをしたいと思います。

「私と山岳警備隊」

私が医師の道を選んだきっかけの一つが、「ピッケルを持ったお巡りさん」という本でした。富山県警山岳警備隊の活躍を紹介したルポルタージュです。中学高校で天文部に所属していた私は、空気が薄く、より澄んだ星空を求めて山を登るようになっていました。山のことを少し知りたいと立ち寄った書店の趣味書コーナーで、親しみやすい題名に引かれてこの本を手にとったのです。

本には実際にあった遭難事故での救助活動の様子が克明に描かれていました。無事に救助できた事例もあれば、現場で亡くなった事例もありましたが、それぞれ遭難が発生した要因がしっかりと分析されており、将来の山岳事故を少しでも減らしたいという思いが込められていました。当時の私が何よりも心を動かされたのは、自身の危険をかえりみずに懸命に救助活動に取り組む隊員の姿でした。それ以来、人を救けるという仕事に強く惹かれるようになり、自分が医者になって山岳警備隊に入隊すれば、現場でもう少し多くの人を救われるのではないかと考えるようになりました。今でいうドクター・ヘリの山岳警備隊版です。とは言っても、当時はまだドクター・カーすら存在しなかった時代ですから、やや荒唐無稽な、高校生ならではのぼんやりとした夢物語でした。

医学部に進んだ私は、やはり山岳部に入部しました。夏は縦走とロッククライミング、冬は雪山登山、普段は大学の校舎の壁で懸垂下降の練習です。大学6年間の勉強は大変でしたが、山岳部の活動が私を鍛えてくれたと思います。

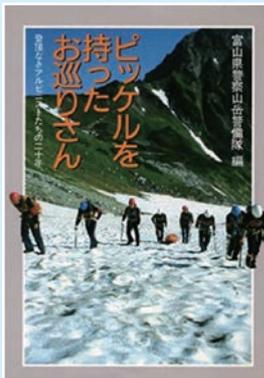
ある年のこと、残雪の前穂高沢を詰めていた時に、夏ルートを下って滑落してしまった単独行の方を発見しました。しかし、



麻酔科 部長
いしざき たく
石崎 卓

- 1994年 東京医科大学医学部卒業、同大学麻酔科学講座入局
- 2002年 呼吸器外科手術で使用されるクーデック気管支ブロックを開発（これまでに国内外合わせて15万人の手術で使用される）
- 2007～2008年 ルンド大学（スウェーデン）に研究留学
- 2010年 東京医科大学麻酔科学講座講師
- 2013年 戸田中央総合病院麻酔科部長
- 2022年4月 東京警察病院麻酔科に着任

- 【主な資格】 日本麻酔科学会認定 専門医・指導医
厚生労働省認定 麻酔標榜医
- 【専門領域】 周術期麻酔管理、呼吸器外科の麻酔



半身が雪に埋まっており、残念ながら体は既に冷たくなっていました。近くの山小屋から長野県警に通報しましたが、馴染みの小屋の主人と相談し、気温が上がって雪崩が起きやすくなる前に自分たちで収容してあげようということになりました。早速、遭難現場に戻ってご遺体を寝袋に収め、前後のザイルで制動をかけながら山小屋まで下ろし、そこからは長野県警のヘリで搬送してもらいました。翌日、同じルートで前穂高岳にアタックした際、現場にお酒をまいて供養したことや、亡くなられた方のご家族から、突然の辛い事故であるにも関わらず、最期に同じ山好きの医者のお世話になってよかったと言って頂いたことなどが、心に残っています。

医学部卒業後は当初の計画とは異なる麻酔科という道に進みましたが、この時の経験は今でも私の仕事の拠り所になっています。医学が進歩した現代においてもなお、救えない命が存在します。それでも、大きな困難に直面している人がいれば明日もまた全力を尽くす。若き日に触れた山岳警備隊の精神です。